

嶋満神社便り

平成二十九年四月号(第二十二号)
発行 嶋満神社奉賛会

新会長へバトンタッチ

昨年の総会報告でもお知らせしましたが、当奉賛会の会長として長年お世話になりました清水氏が退任され、新会長に高田稔氏が就任されました。

高田氏は三代前の会長、高田守氏のご長男であり、経営される工務店は創業百年超の老舗として、昨年府知事から表彰されました。当奉賛会長としてふさわしい方にお願いできて一同大変喜んでおります。また清水氏には大変お世話になり、ありがとうございます。これからもご意見番としてよろしくお願いいたします。尚、会計津田氏と事務局谷岡はこれまで通りお手伝いさせていただきますので、こちらもどうぞよろしくお願いいたします。

お菓子のお話

先日の読売新聞のコラムに「お菓子の神様」のお話載っていましたので、ご紹介いたします。和歌山県海南市の橋本神社(きつもとじんじや)です。

祭神は「田道間守の命」(タジマモリノミコト)。但馬の国、出石神社に祀られている天日槍命(アメノヒボコノミコト)の子孫であると古事記に記されています。アメノヒボコは太陽神を祀る矛の神霊であり、**太陽神、農業神**の神格を持ちます。(日本の神様がよくわかる本…戸部民夫著)

この田道間守さんが垂仁天皇の命で不老長寿の霊薬とされる「タチバナ」を探すために中国へ渡り、十余年後、無事持ち帰ったものの既に天皇は亡くなっており、持ち帰った実の半分を皇后に献上し、半分を帝の御陵に供えると、その場で悲しみのあまり絶命したと言います。

このタチバナが改良されて「みかん」になった

ということ、タジマモリさんはお菓子の神様になったのです。当時はお菓子と言えば木の実や果実を加工したものばかりでしたからね。

毎年四月には菓子祭が開催され、全国の菓子メーカー、和菓子店が商品を奉納するそうですよ。このタジマモリさんのお話は丹後半島に伝わる「徐福」の伝説…始皇帝の命により不老不死の薬を求めて中国から渡ってきた…や、冠島にも伝わるという浦島伝説…俗世を離れた清浄な場所を訪れるという「仙境訪問譚」にもつながるものがあり、親しみを感じます。

マイ花見 お気に入りの桜

まもなく待ちに待ったお花見の季節ですね。当社の参道にあった桜の木は残念ながら切り倒されてしまいました。まだ上の方には花を咲かせる桜がありますので、時期が来たら見上げてみてください。

いわゆる「桜の名所」でなく身近な場所にある桜でも、ふと見てみればそのきれいに感動することがよくあります。

「おッ！こんなところにもきれいな桜が！」と。私のお気に入り、最近仕事でよく通る道から見えるこの桜です。



さて、どこでしょうか？

皆様のお気に入りの桜はありますか？

いい場所があればそっと教えてください。

ではまた次号でお会いしましょう。